

2026年12月期 第1四半期 決算説明資料

協和キリン株式会社

 **KYOWA KIRIN**

アジェンダ

01 > 経営方針とQ1ハイライト

02 > 財務レビュー

03 > コマーシャルアップデート

04 > ビジネスアップデート

05 > R&Dアップデート

代表取締役会長
宮本 昌志

代表取締役社長
Chief Executive Officer (CEO)
アブドゥル マリック

Chief Medical Officer (CMO)
鳥居 義史

Chief Financial Officer (CFO)
五十嵐 孝史

本資料には、当社(国内外の連結子会社を含む)の見通し、目標、計画など、将来に関する記述が含まれています。これら将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報や予測をもとになされた当社の合理的な判断に基づくものですが、実質的にこれら記述とは大きく異なる結果を招く不確実性を含んでいます。

これら不確実性には、国内外製薬業界の事業活動に潜在するリスク、知的財産権にかかるリスク、副作用に関するリスク、法的規制リスク、製品の欠陥等の発生リスク、原燃料価格の変動リスク、製品市況価格の変動リスク、為替・金融市場の変動リスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料は、投資家の皆様に向けて情報を提供することを目的としたものであり、内容には医薬品(開発中の製品を含む)に関する情報が含まれておりますが、宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2026年第1四半期ハイライト（エグゼクティブサマリー）

■ 今後の経営方針

■ 連結業績

- 売上収益1,185億円（前年同期比13%増収）、コア営業利益200億円（同78%増益）
- 年間計画に対しても計画線で推移

■ 業績予想のアップデート

- ロカチンリマブの臨床試験中止により、コア営業利益は上方修正
- 一方で、クロージングコストの発生等により、当期利益は変更なし
- Vision 2030 and Beyond:中長期構想で公表した財務KPIは変更しない

■ ビジネスピックアップ

- 創薬力の更なる強化を目指し、国内研究拠点の統合計画を発表

Vision 2030

協和キリンは、イノベーションへの情熱と多様な個性が輝くチームの力で、日本発のグローバル・スペシャリティファーマとして病気と向き合う人々に笑顔をもたらすLife-changingな価値*の継続的な創出を実現します。

アンメット メディカルニーズを 満たす医薬品の提供

抗体技術の進化へ挑戦を続けることに加え、多様なモダリティを駆使し協和キリンの強みを生かした創薬により、有効な治療法のない病気の治療に取り組んでいきます。

患者さんを中心においた 医療ニーズへの対応

医薬品事業で培った疾患に関する知見と最先端の科学・技術の応用に努め、病気と向き合う人々のニーズを基点にした新たな価値を共創することで社会の医療ニーズに応えていきます。

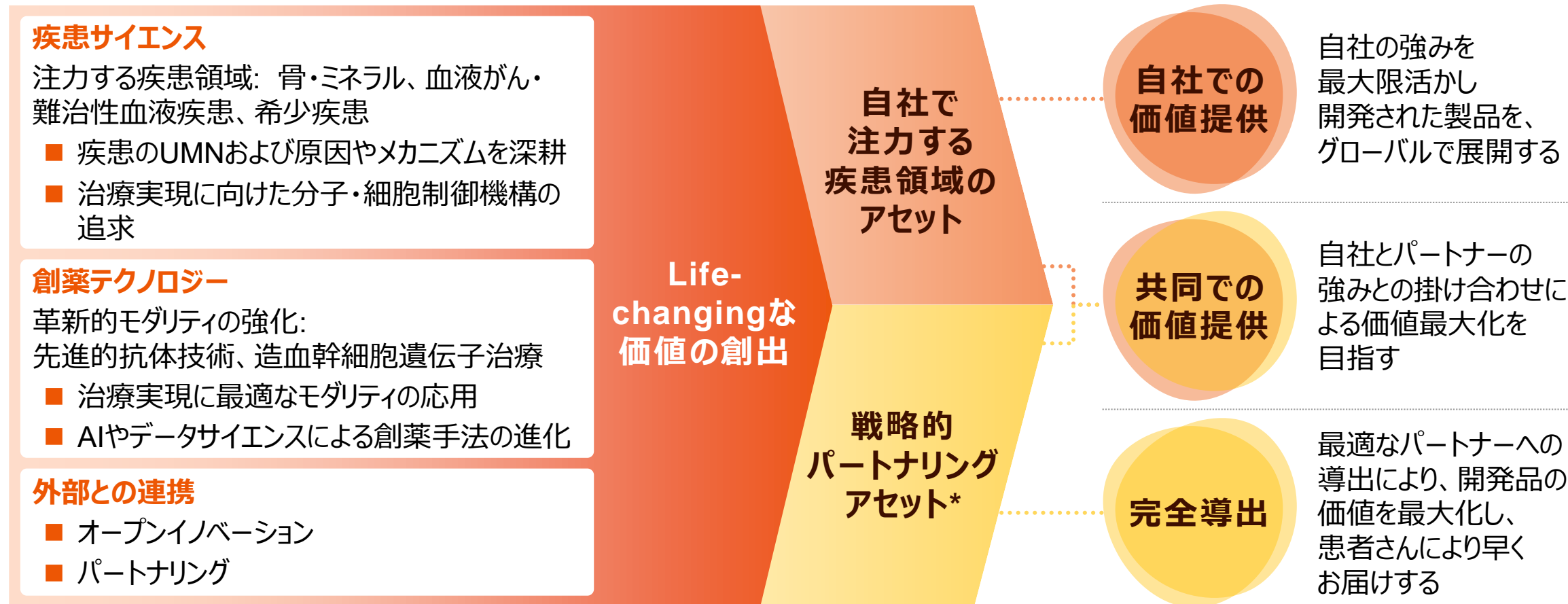
社会からの信頼獲得

常に信頼され、成長が期待される企業であり続けるため、世界トップクラスの製品品質とオペレーショナルエクセレンスを追求し続けます。

* 病気と向き合う人々の満たされていない医療ニーズを見出し、その課題を解決するための新たな薬やサービスを創造し、提供することで、患者さんが「生活が劇的に良くなった」と感じ笑顔になること

Life-changingな価値を創出するための戦略 - Story for Vision 2030

大きな環境変化がある中、ビジョン実現をより確かなものにすべく、Story for Vision 2030を策定
 ビジョンの解像度を上げながら、戦略と課題をより有機的に結び付け、Life-changingな価値の創出に向けたCSV経営を実践していく



* 注力する疾患領域以外のアセットを戦略的パートナーングアセットとし、パートナーとの連携で価値最大化を実現する

協和キリンは強みのある疾患領域に注力し、成長を実現

領域×モダリティの双方にエキスパティーズをもつユニークなJ-GSPとして、グローバルに事業を展開



注力する 疾患領域



 骨/ミネラル

 血液/
血液がん

 希少疾患

 戦略的提携
アセット/
その他



強みがある モダリティ



抗体医薬

先進的抗体技術

ADC

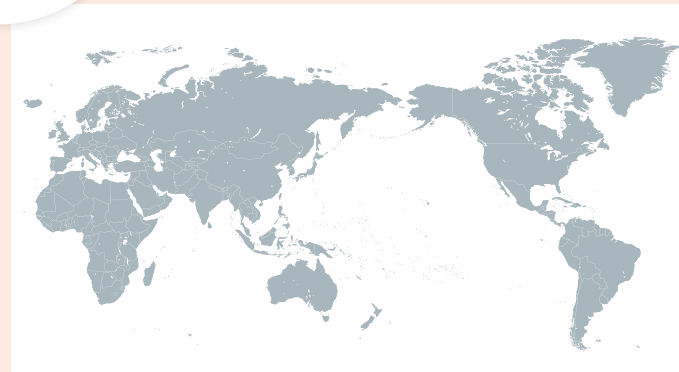
遺伝子細胞治療

Engineered
HSC-GT

AIやデータサイエ
ンスの活用



実績のある 商業化基盤



疾患に関する
深い知見/経験

希少疾患の患者さん
を見出す知見

患者さん及び患者団体との密接な
エンゲージメントを継続

最適なパートナーへの導出により、
開発品の価値を最大化

事業成長を支える

オペレーショナルエクセレンス

ガバナンス・執行体制の最適化

新しい執行体制（C-suite executive team）における優先事項

Life-changingな価値の創出と提供と「Vision 2030 and beyond：中長期構想」の財務目標を達成に向け、成長の軸を以下に明確化

1 既存主力製品の価値最大化

- CrysvitaとPoteligeoの成長継続と、ライフサイクルマネジメント施策による価値最大化

2 規律に基づいた戦略投資の積極的な検討

- フォーカス領域において戦略投資（製品導入、企業買収等）を実行、更なる成長を狙う

3 次世代成長基盤の確立（注力領域への集中）

- 注力する疾患領域のパイプラインの開発成功・上市
（KOMZIFTIのAML*1次治療への適応拡大、KK8123, KK2845, OTL-203など）

4 成長を支えるオペレーショナルエクセレンスの追求

- AI/DXによるオペレーションモデルの転換
- プロセスの最適化とリソースの集中を進め、機動力を高める

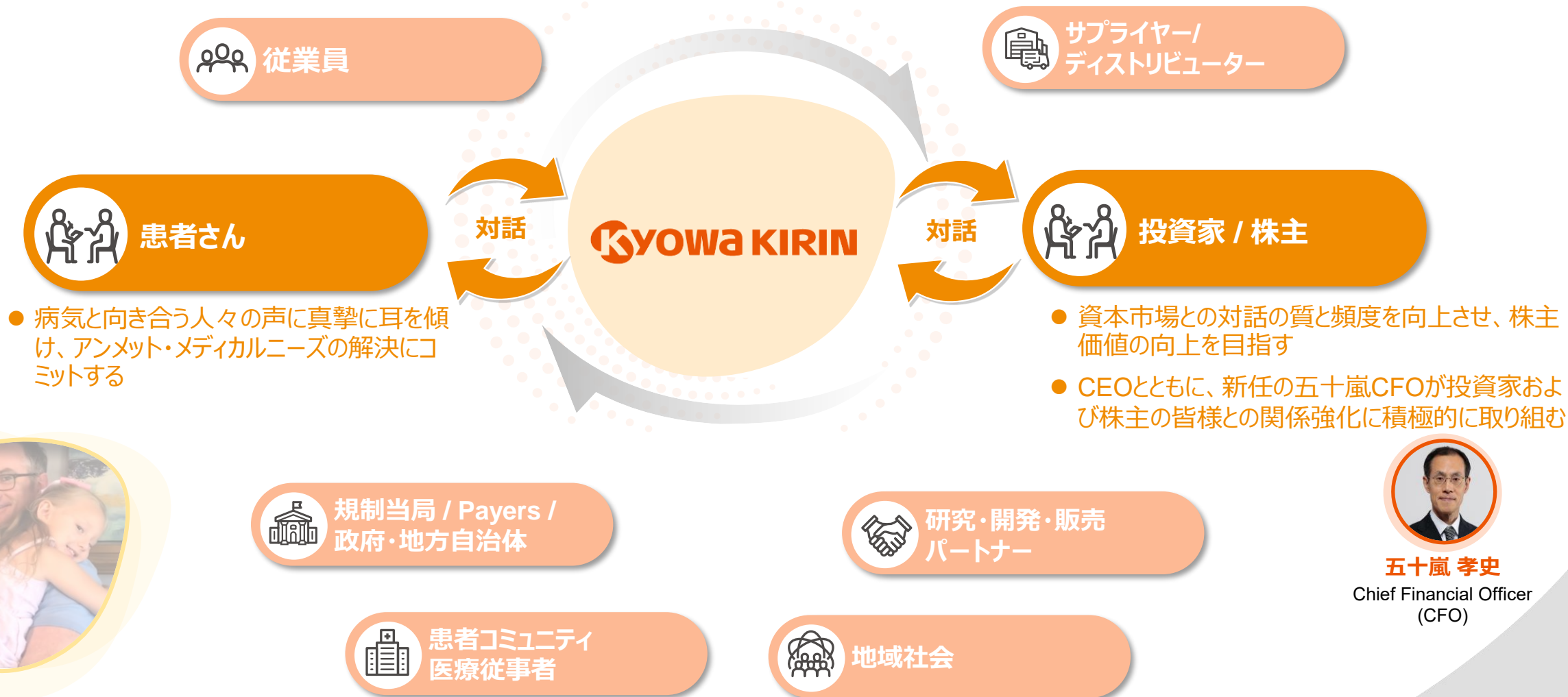
Life-changingな
価値の創出と提供

中長期財務目標
（2030年前半）

- ROE10%台前半
- コア営業利益率30%

ステークホルダーとの対話

環境および地政学的な不安定さ、そして絶えず進化するヘルスケア業界など、急速に変化する外部環境の中でも、患者さんのニーズや投資家との対話などでステークホルダーとつながることは、Life-changingな価値を創出し、それを届けるという私たちの成功に不可欠な要素



五十嵐 孝史
Chief Financial Officer
(CFO)

財務レビュー

FY26 Q1業績サマリー

Q1は増収増益で年間計画に対しても計画線

(単位は億円、単位未満四捨五入)

	2025年 Q1実績	2026年 Q1実績	増減	2026年 修正予想	進捗率
売上収益 [海外売上比率]	1,047 [73%]	1,185 [77%]	+137 (+13%)	5,200→ 5,200 [77%]	23%
売上総利益 [売上総利益率]	801 [77%]	882 [75%]	+81 (+10%)	3,910→ 3,880 [75%]	23%
販売費及び一般管理費*1 [販管費率]	404 [39%]	411 [35%]	+7 (+2%)	1,690→ 1,630 [31%]	25%
研究開発費 [研究開発費率]	286 [27%]	272 [23%]	-14 (-5%)	1,220→ 950 [18%]	29%
コア営業利益*2 [コア営業利益率]	112 [11%]	200 [17%]	+88 (+78%)	1,000→ 1,300 [25%]	15%
当期利益/四半期利益	62	120	+59 (+95%)	750→ 750	16%

*1 無形資産償却費 (販売権償却費) を除く

*2 コア営業利益: 売上総利益 - 販売費及び一般管理費 (無形資産償却費を除く) - 研究開発費 - 当社が判断する非経常的な損益

為替情報

- 2025年Q1実績 154円/米ドル
- 2026年Q1実績 155円/米ドル
- 2026年修正予想 150円/米ドル

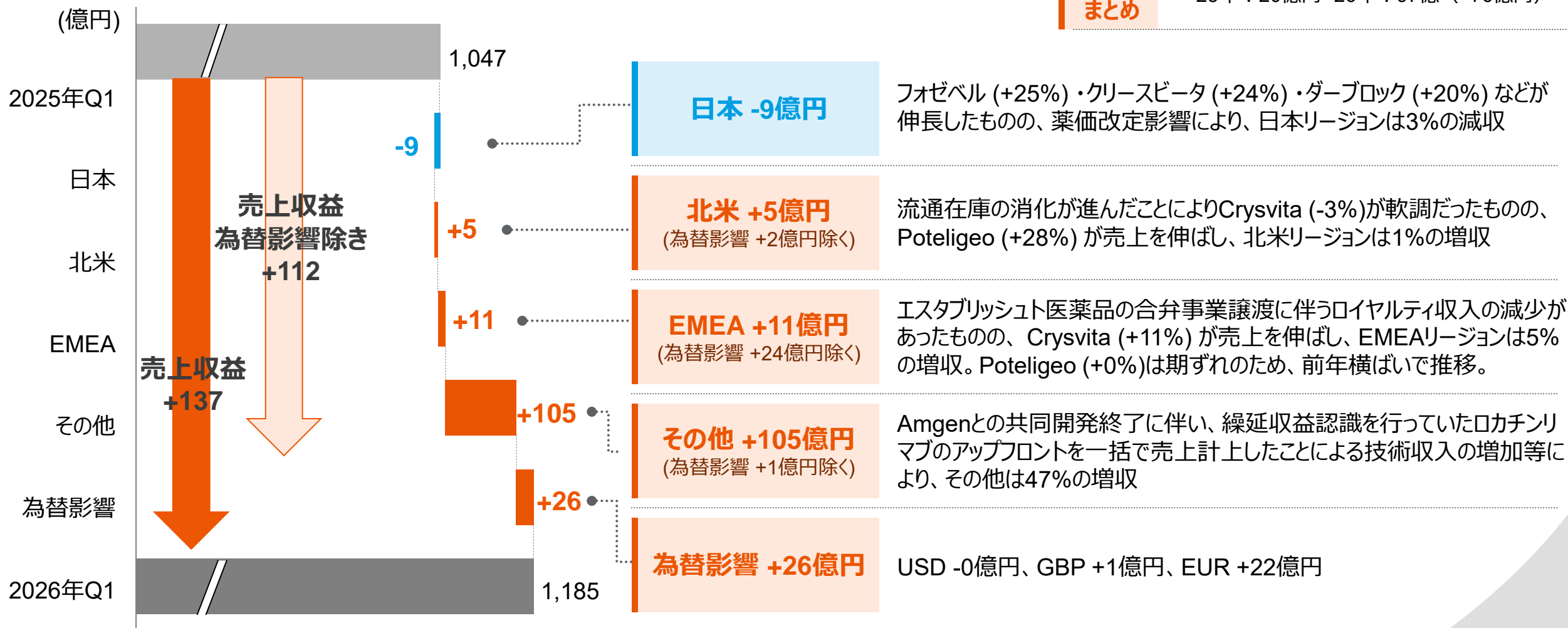
* 2026年5月7日に発表した業績予想の修正において、
為替の前提に変更はありません。

対前年分析~売上収益~（地域別）

北米、EMEAを中心としたグローバル戦略品の伸長に加え、技術収入の増加により増収

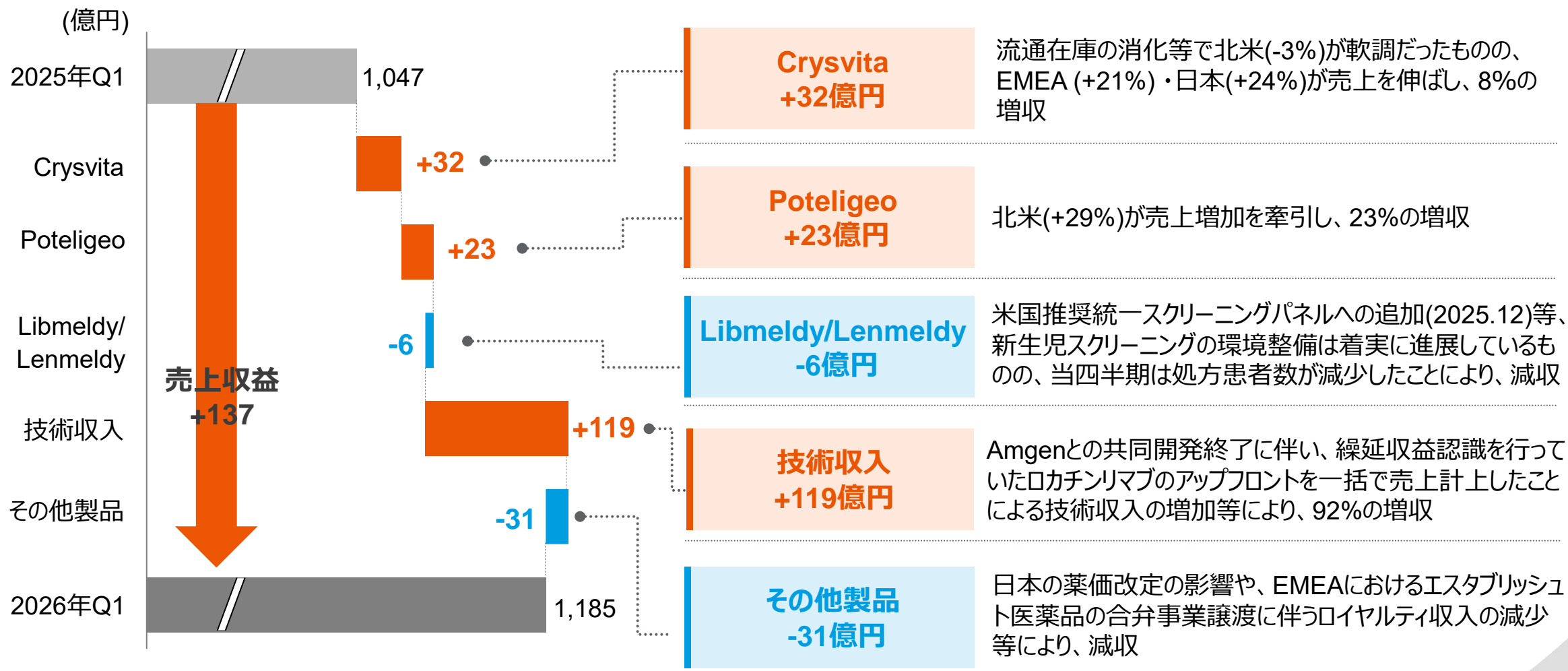
一時
要因
まとめ

ロカチンリマブ アップフロント繰延収益
25年：20億円 26年：97億（+76億円）



対前年分析~売上収益~（製品別）

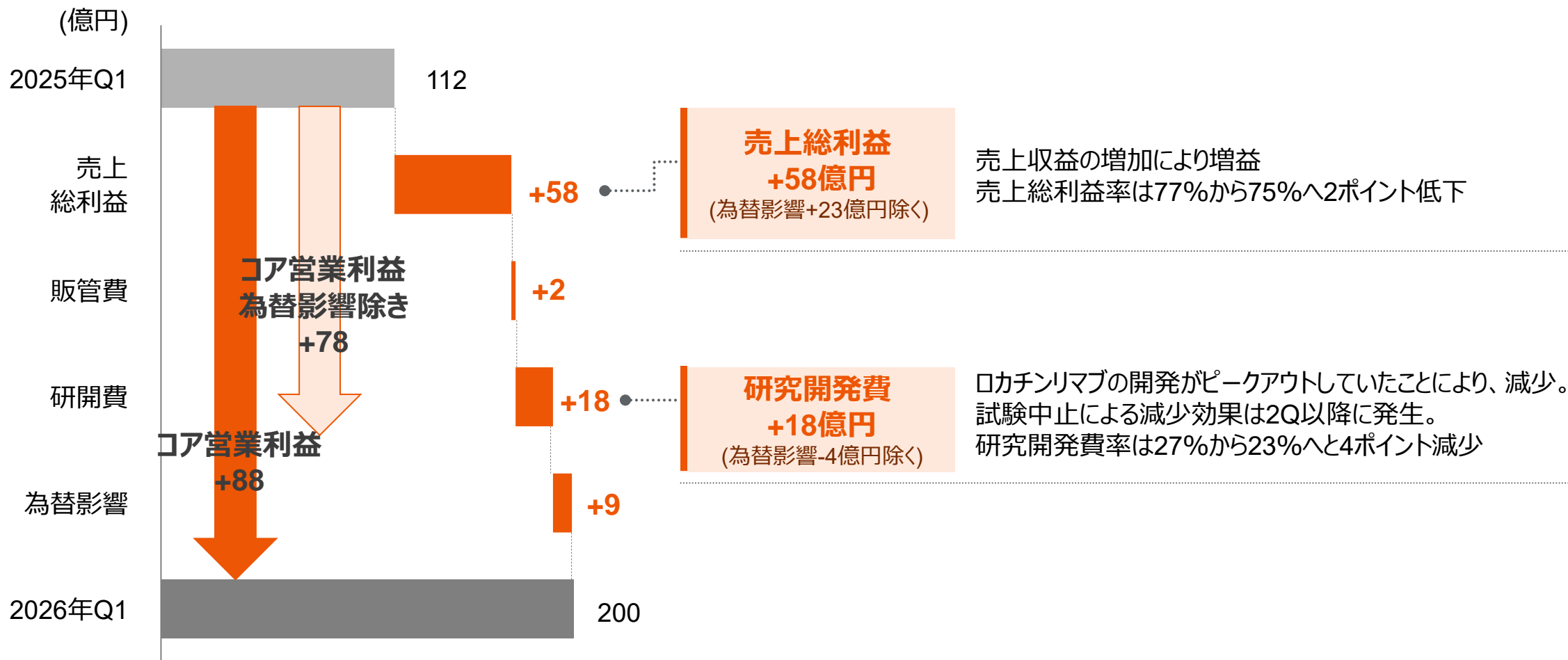
Crysvita、Poteligeoの伸長に加え、技術収入の増加により増収



※ 上記売上収益の増減は為替影響 (+26億円) を含む

対前年分析~コア営業利益*1~

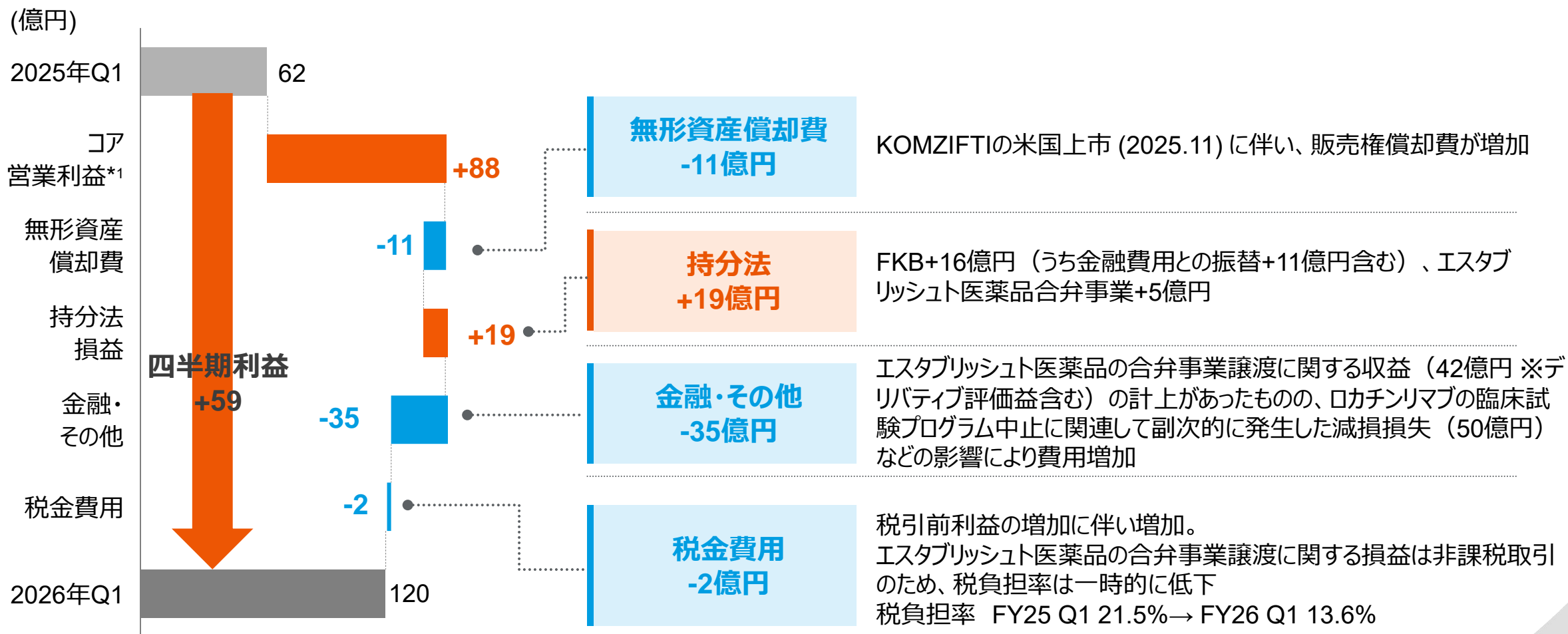
グローバル品や技術収入による増益に加え、ロカチンリマブの開発費の減少等により、増益



*1コア営業利益: 売上総利益 - 販売費及び一般管理費 (無形資産償却費を除く) - 研究開発費 - 当社が判断する非経常的な損益

対前年分析~四半期利益~

ロカチンリマブ[®]関連の減損損失を計上したものの、コア営業利益の増加により増益



FY26 業績予想アップデートサマリー

年間業績予想はコア営業利益を上方修正。当期利益は修正せず、対前年増益を目指す。

(単位は億円、単位未満四捨五入)

売上収益

[海外売上比率]

売上総利益

[売上総利益率]

販売費及び一般管理費*1

[販管費率]

研究開発費

[研究開発費率]

コア営業利益*2

[コア営業利益率]

当期利益

ROE

(3年平均)

DOE

	2025年 実績	2026年 修正予想	増減
	4,968 [74%]	5,200→ 5,200 [77%]	+232 (+5%)
	3,689 [74%]	3,910→ 3,880 [75%]	+191 (+5%)
	1,579 [32%]	1,690→ 1,630 [31%]	+51 (+3%)
	1,012 [20%]	1,220→ 950 [18%]	-62 (-6%)
	1,098 [22%]	1,000→ 1,300 [25%]	+202 (+18%)
	670	750→ 750	+80 (+12%)
	7.7% (8.3%)	8.2% (7.7%)	
	3.8%	4.1%	

為替情報

- 2025年実績 150円/米ドル
- 2026年修正予想 150円/米ドル

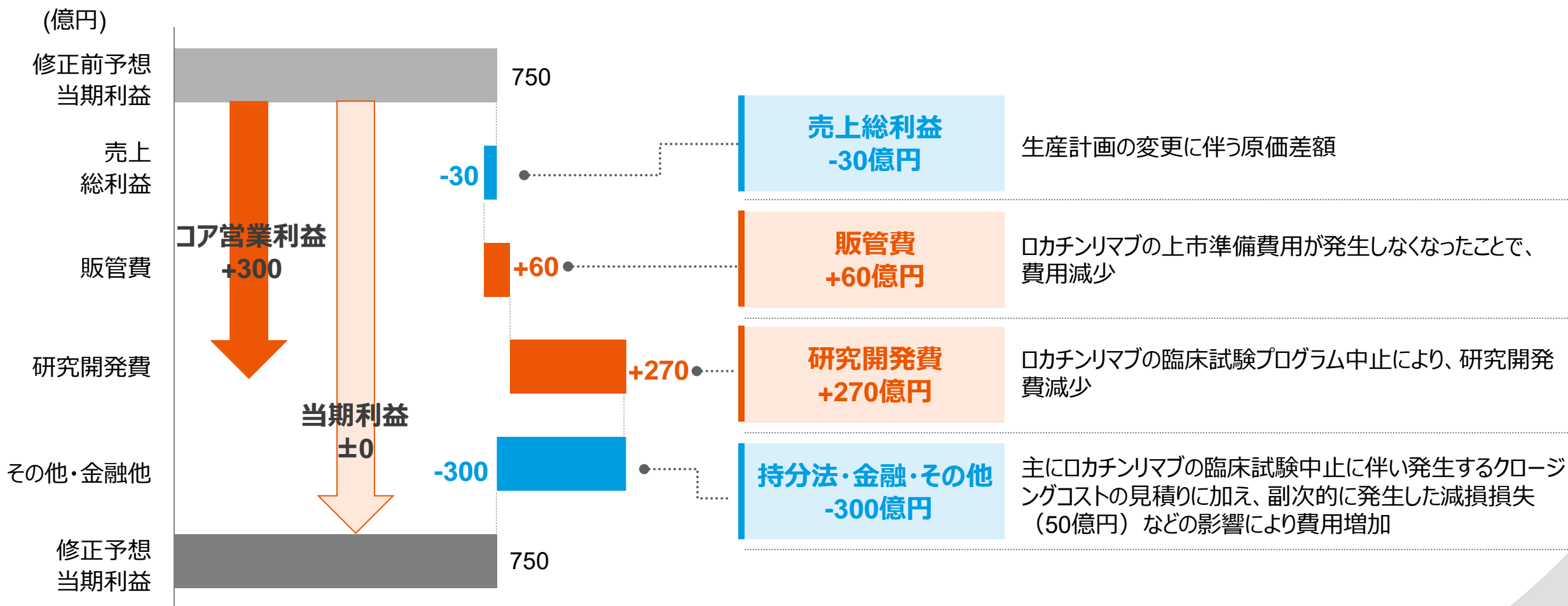
* 2026年5月7日に発表した業績予想の修正において、為替の前提に変更はありません。

*1 無形資産償却費 (販売権償却費) を除く

*2 コア営業利益: 売上総利益 - 販売費及び一般管理費 (無形資産償却費を除く) - 研究開発費 - 当社が判断する非経常的な損益

業績予想アップデート

ロカチンリマブの臨床試験中止による費用減でコア営業利益が増加するものの、クロージングコスト等の計上により当期利益は据え置き



コマーシャルアップデート

Coordinated Actions to Maximize the Patient Access to global strategic products

Crysvita 2026年 主要アクション・Q1トピックス

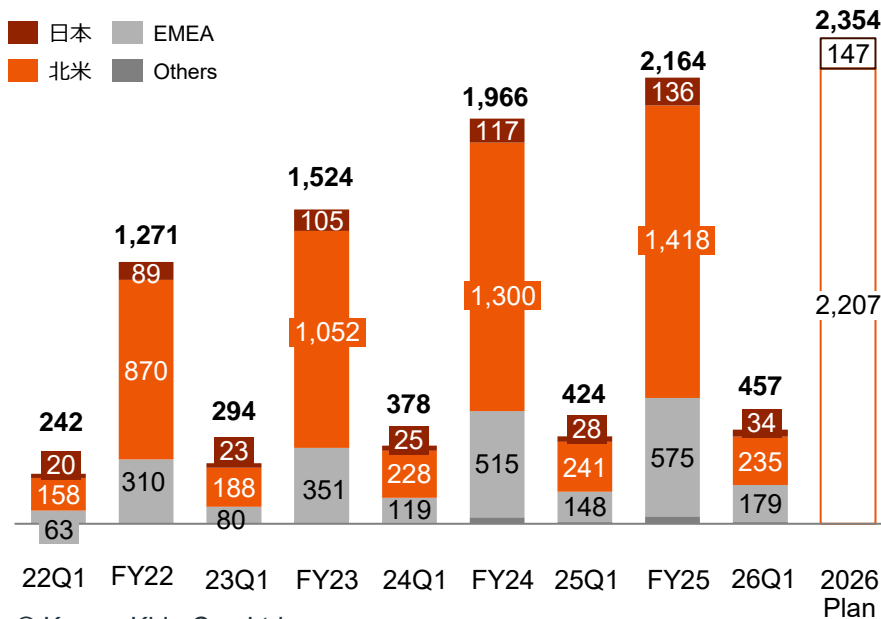
2026年の主要アクション

- **北米:**
患者さんの特定、医療関係者向け教育、患者サポートサービスの進化を支援するため人的資源およびオペレーションへの投資を継続
- **EMEA:**
AI活用を含む患者さんの特定強化、小児領域におけるガイドラインに基づく使用の浸透強化および成人患者さんへの浸透
- **日本:**
2025年10月に発足した骨領域専任室を中心としたプロモーション活動および疾患啓発活動の強化により、成人患者さんへの浸透を推進する

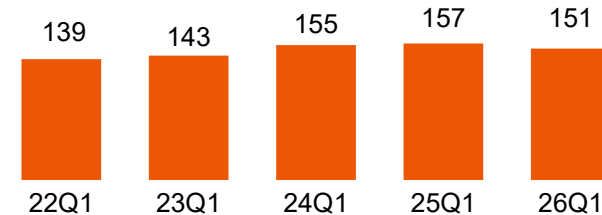
2026年Q1のトピックス

- **北米: 前同比 円貨ベース -3%、現地通貨ベース -3%**
季節的要因（在庫消化）によりQ1の売上は軟調に見えるものの、強化された患者支援プログラムに支えられ、需要の前年比成長は引き続き力強く推移
- **EMEA: 前同比 円貨ベース+21%、現地通貨ベース+11%**
堅調な需要に加え、EUにおけるXLH治療ガイドラインに基づく成人患者の増加が成長を牽引し、治療患者数の拡大に寄与
- **日本: 前同比 +24%**
専任MRによるプロモーション強化および疾患認知向上の取り組みが奏功し、新規患者の安定的な獲得とプレフィルドシリンジの浸透が加速

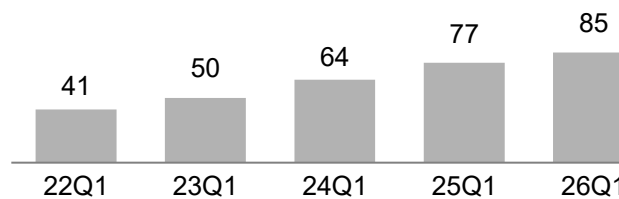
売上収益 (億円)



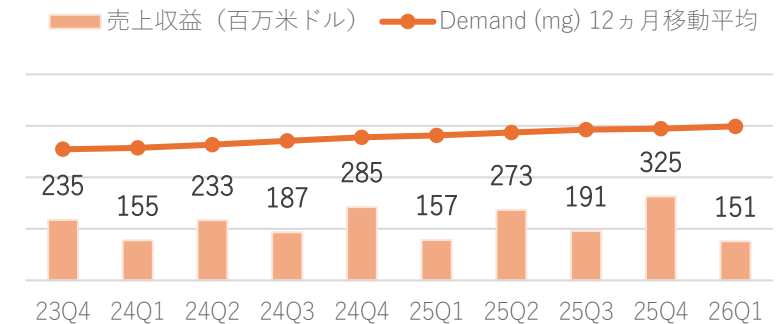
北米 売上収益 (百万米ドル)



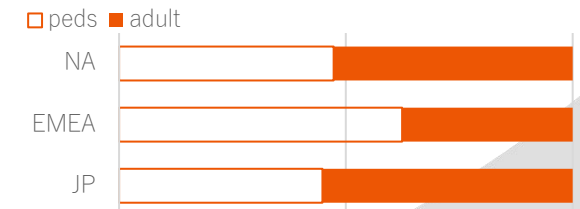
EMEA 売上収益 (百万ポンド)



北米 デマンドのトレンド



Crysvita 処方XLH患者構成比



Poteligeo 2026年 主要アクション・Q1トピックス

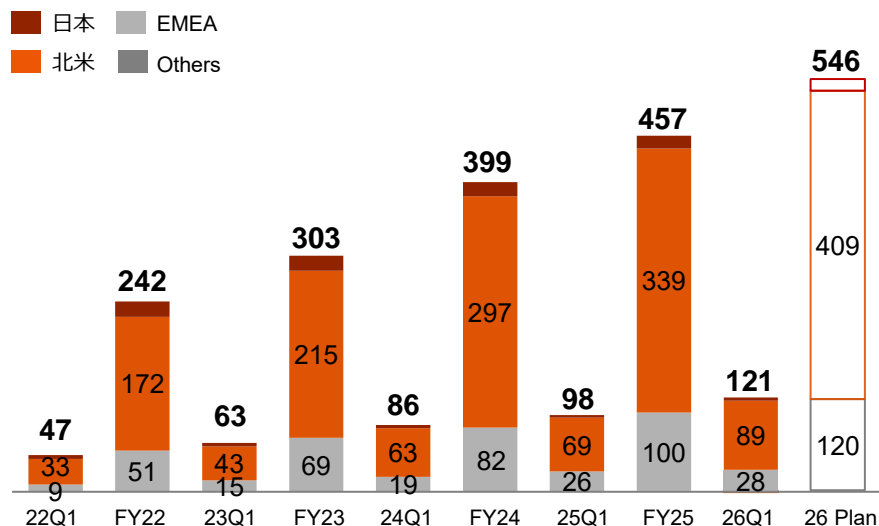
2026年の主要アクション

- グローバル:**
 グローバルで一貫した施策を通じて、MF/SSにおけるPoteligeoフランチャイズを支援するとともに、臨床エビデンスおよびリアルワールドエビデンスの継続的な活用により、プロダクト価値を強化
- 北米:**
 適切なMF/SS患者さんの特定に注力するとともに、エビデンスに基づくコミュニケーションを通じて、より広範かつ早期での使用を支援する。機械学習・AI技術を活用した取り組みを継続
- EMEA:**
 適切なMF/SS患者さんの特定に注力するとともに、エビデンスに基づくコミュニケーションを通じて、より広範かつ早期での使用を支援する。市場拡大機会および償還獲得に向けた取り組みを支援。ピアエクスチェンジプログラムやAIデータを活用し、より早期での患者さん特定を後押しする

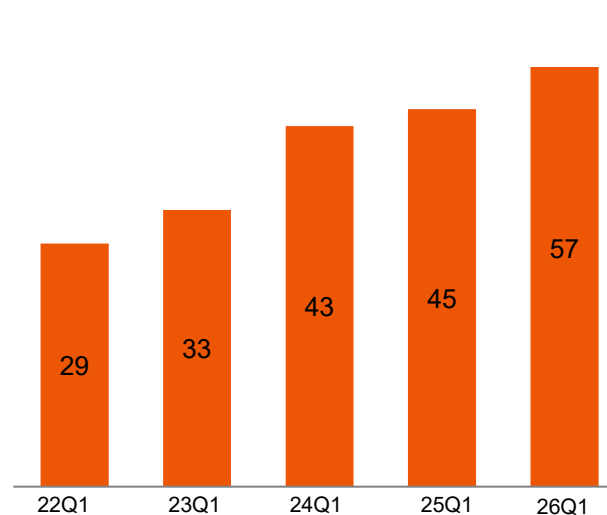
2026年Q1のトピックス

- グローバル:** 前同比 円貨ベース +23%, 年度計画進捗率 22%
- 北米:** 前同比 円貨ベース +29%, 現地通貨ベース +28%
 営業体制の強化、ML/AIを活用したプロモーション、高度なアナリティクス、ならびに積極的な患者探索が成長を牽引。
- EMEA:** 前同比 円貨ベース +9%, 現地通貨ベース+0%
 出荷タイミングの影響により一時的に業績は弱含んだものの、エビデンスに基づくコミュニケーションの推進および継続的な患者エンゲージメント施策に支えられ、デマンドは底堅く推移。

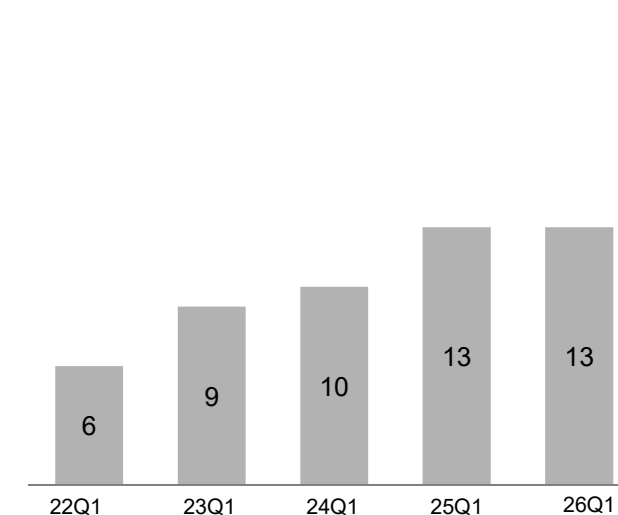
売上収益 (億円)



北米 売上収益 (百万米ドル)



EMEA 売上収益 (百万ポンド)



2026年の主要アクション

- 有効性・安全性プロファイルおよび使いやすさといった特長を背景に、再発難治 (R/R) のNPM1変異陽性AMLにおいて競争力のある治療選択肢としてのポジションを確立、さらなる市場浸透の拡大を目指す

2026年Q1のトピックス

- 発売初期段階として好調なスタートを確認
- 差別化された製品プロファイルを背景に、再発・難治性NPM1変異AMLにおいて処方医・患者さん・薬剤師からの強い関心を確認
- 民間保険会社の80%超がKOMZIFTIを給付対象としている

※ KOMZIFTIの売上収益はKura Oncology社の決算説明会（5月12日）後に開示予定

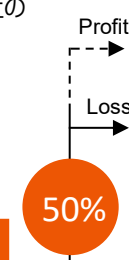
KOMZIFTI
Product P/L Image (単位：億円)

項目	2025通期	2026 Q1
Net Profit / Net Loss before tax	(82)	(15)

- Net Profit / Net Loss before tax の50%を協和キリンのP/Lに計上

Kyowa Kirin P/L Image (単位：億円)

項目	2025通期	2026 Q1
売上収益	—	—
販売費及び一般管理費	(41)	(7)
コア営業利益	(41)	(7)
無形資産償却費	(7)	(11)
税引前利益	(48)	(18)



各種進捗

- ✓ National Comprehensive Cancer Network® (NCCN) 急性骨髄性白血病ガイドラインに追加 Press release Nov 26, 2025
- ✓ 2025 ASH Annual Meeting にてKOMET-007 P1b試験 ven/aza併用コホートの有効性・安全性の結果を発表 Press release Dec 9, 2025
- ✓ NPM1変異を有する再発難治AMLを対象とした日本P2試験を開始 Press release Apr 24, 2026

✓ Ziftomenib (開発)
 ✓ KOMZIFTI (開発以外)

今後の予定

- ✓ KOMET-007 P1b試験：1次治療 7+3 併用治療データ First Half of 2026
- ✓ KOMET-007 P1試験：再発難治NPM1変異AMLのven/aza併用試験結果 論文発表 First Half of 2026
- ✓ KOMET-008 P1試験：NPM1/FLT3共変異AMLを対象としたGilteritinib併用データ Second Half of 2026

ビジネスアップデート

「革新的なLife-changingな価値の創出」に向けてさらに一歩踏み出す

Vision 2030 and Beyond -中長期構想- より



革新的な Life-changingな価値の創出

- 先進的抗体技術と造血幹細胞遺伝子治療の強みを活かし、研究開発を加速する
- Ziftomenib、KHK4951など後期開発パイプラインを確実に進展させる
- 戦略的投資による新たなパイプライン、収益機会の獲得を狙う



患者さんへの Life-changingな価値の提供

- 実績のあるグローバルにおけるコマーシャル基盤をさらに強化していく
- 患者さん、及び患者団体との密接なエンゲージメントを継続
- CrysvitaおよびPoteligeoの成長を継続
- KOMZIFTIの上市および市場浸透を推進



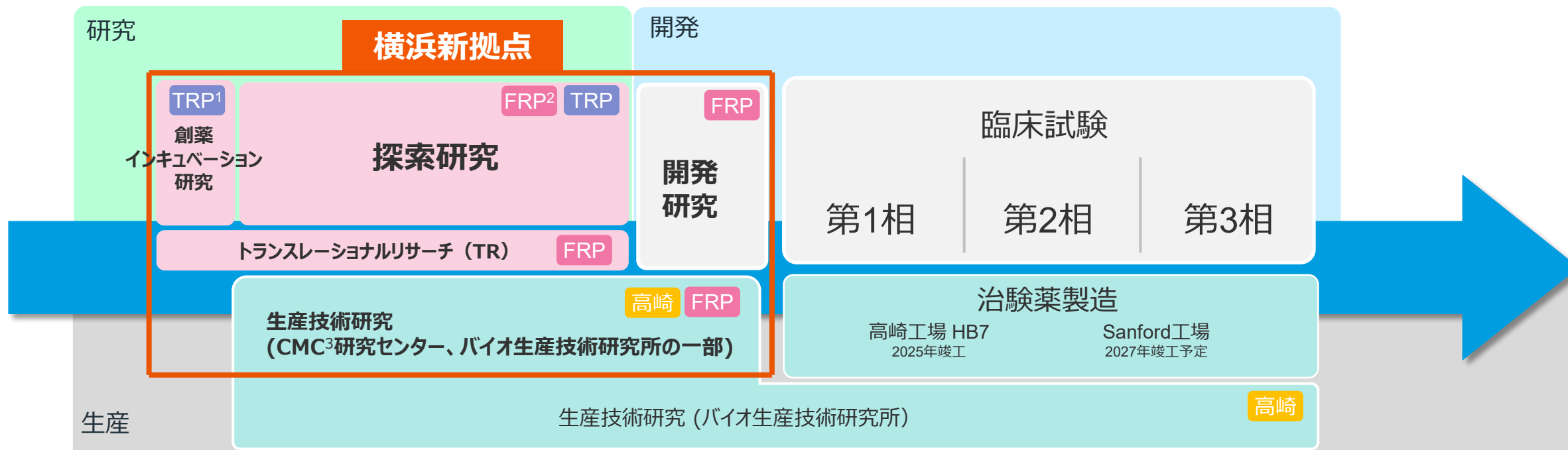
Super Teamによる オペレーショナルエクセレンスの追求

- 戦略を力強く実行するケイパビリティを備えたSuper Teamへ更なる進化
- AI/DXによるオペレーションモデルの転換
- プロセスのシンプル化とリソースの集中を進め、アジャイルに動き続ける



国内研究拠点を統合し、新拠点の横浜への移転

創薬力の更なる強化 – 国内研究拠点を統合して新研究拠点を横浜に移転



- 最新の創薬技術に対応するために、協和キリンの創薬プロセスを進化させる施策
- 探索研究・TR・CMC・開発研究が早期から有機的につながった研究開発モデルの確立を目指す
- HB7（2025年竣工）やSanford工場（2027年竣工予定）と合わせて、協和キリンの創薬力をさらに高めていく

1. 東京リサーチパーク, 2. 富士リサーチパーク, 3. Chemistry, Manufacturing and Control

R&Dアップデート

開発パイプライン ニュースフロー

新規追加情報をオレンジで表記

プロダクト	対象疾患	イベント	ステータス	
ziftomenib	KOMZIFTI™として上市済み	AML (1L併用)	KOMET-017 (P3)	進行中
			KOMET-007 (P1)	進行中
OTL-203	ムコ多糖症I型 (Hurler症候群)	ピボタル試験 (P3相当)	進行中	
KK8398 infigratinib	軟骨無形成症	P3	進行中	
	軟骨低形成症	P3	準備中	
KHK4951 tivozanib 点眼	滲出型加齢黄斑変性	P2	進行中	
	糖尿病黄斑浮腫	P2	進行中	
OTL-201	ムコ多糖症IIIA型 (Sanfilippo症候群A型)	POC試験 (P1/2相当) 英国ILAPにおけるInnovation Passport指定を取得	進行中 2026年4月	
KK4277	SLE, CLE	P1	進行中	
KK2260	進行性又は転移性固形がん	P1	進行中	
KK2269	進行性又は転移性固形がん	P1	進行中	
KK2845	AML	P1	進行中	
KK8123	XLH	P1	進行中	
KK3910	本態性高血圧	P1	進行中	
OTL-200	Libmeldy®/Lenmeldy®として上市済み	MLD	P3 (日本) 承認申請 (日本)	準備中 2026年3月
KK2223	CTCL, PTCL	P1	準備中	

Appendix

主要アイテム 売上収益

(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2025年 Q1実績	2026年 Q1実績	前年比	増減要因	2026年 修正予想*	進捗率
Crysvita	424	457	+32 (+8%)		2,354	19%
日本	28	34	+7 (+24%)	市場浸透	147	23%
北米	241	235	-6 (-3%)			
EMEA	148	179	+31 (+21%)		2,207	19%
その他	8	9	+1 (+14%)			
Poteligeo	98	121	+23 (+23%)		546	22%
日本	3	4	+1 (+24%)	市場浸透	14	25%
北米	69	89	+20 (+29%)		409	22%
EMEA	26	28	+2 (+9%)		120	23%
その他	0	0	-0 (-32%)		2	9%
Libmeldy / Lenmeldy	21	15	-6 (-30%)		100	
米国	11	11	+0 (+0%)	市場浸透 (2024.3米国FDA承認)	45	15%
EMEA	10	4	-6 (-61%)		55	
フォゼベル	15	19	+4 (+25%)	市場浸透 (2024.2発売)	116	17%
ダーブロック	30	36	+6 (+20%)	市場浸透	162	22%
ジーラスタ	43	35	-8 (-18%)	薬価改定・競合品影響	162	22%
ロミプレート	34	37	+3 (+10%)	市場浸透	114	33%
技術収入	130	248	+119 (+92%)		749	33%
ベンラリズムブ ロイヤルティ*1	74	86	+12 (+16%)	ファセンラ伸長・ロカチンリ マブ繰延収益一括認識		

1. AstraZeneca社が販売するファセンラの売上ロイヤルティ (当社独自の見積もりを含む)
 2. 海外アイテムは値引等控除後、為替影響込みの金額を表示しています。日本リージョンのアイテムは値引等控除前の金額を表示しています。
 © Kyowa Kirin Co., Ltd.

* 2026年5月7日に発表した業績予想の修正において、『主要アイテム売上収益』の予想に変更はありません。

業績への影響

- Rocatinlimab に関連する販管費および研究開発費が発生しなくなるため、短期的にはプラス影響
- 中長期的には利益にネガティブ影響となる

■ 予想されるコア営業利益に対する影響

- 2026年 : おおよそ +200～300億円
- 2027年 : おおよそ +300億円
- 2028年 : おおよそ +100億円
- 2029年以降 : 一定のマイナス影響を見込む

■ 予想される当期利益に対する影響

- コア営業利益に対する影響に加え、臨床試験の中止に伴い発生するクロージングコストについては、「その他の費用」として計上予定

■ 2026年度の業績予想への影響

- 現在精査中だが、2026年第1四半期決算発表のタイミングで業績予想の修正を開示予定

中長期財務目標への影響と今後の経営方針

- 2026年2月9日に公表した「Vision 2030 and beyond : 中長期構想」で掲げた中長期財務目標は引き続き達成すべき目標であると判断して、変更は行わない

- 以下の成長ドライバーを活かして2030年代前半にROE10%台前半、コア営業利益率30%を目指す
 - CrysvidaとPoteligeoの成長継続と、ライフサイクルマネジメント施策による価値最大化
 - KOMZIFTIのAML*1次治療への適応拡大に伴う売上・利益の大幅成長
 - KK8123, KK2845, OTL-203など、当社が注力する疾患領域のパイプラインの開発成功・上市
 - 注力する疾患領域へのリソース配分の強化と、Life-changingな価値を軸にしたポートフォリオ優先順位付け
 - 費用構造の最適化による利益率の改善（DX/AI等を活用した強靱な組織への変革など）
 - 戦略投資によるインオーガニックな成長加速の積極的な検討

*急性骨髄性白血病のうちメニン依存性のものが対象

2026年12月期からコアベースの業績指標を変更

変更の背景

2021-2025年中期経営計画の終了後の業績管理を検討した結果、2027年12月期から適用されるIFRS第18号「財務諸表における表示及び開示」の影響を見据えて、コアベースの業績指標を変更

- 連結損益計算書の表示変更 (営業・投資・財務の3区分の導入)
⇒持分法による投資損益が営業利益の対象外
- 投資家等とのコミュニケーションに使用する「経営者が定義した業績指標」の注記 (会計監査対象) の導入
⇒グローバル製薬企業との比較可能性が高く、より当社グループの持続的な収益性を示す業績指標へ見直し

変更の内容

売上総利益から、販売費及び一般管理費 (無形資産償却費を除く) 並びに研究開発費を控除し、さらに当社が判断する非経常的な損益を除外して算出

⇒従来のコア営業利益と比較すると、無形資産償却費 (販売権償却費)、持分法による投資損益、及び非経常的な損益が対象外

(億円)		2023年実績	2024年実績	2025年実績	2026年修正予想
コア営業利益 [コア営業利益率]	(現状の指標)	968 [22%]	954 [19%]	1,031 [21%]	1,190 [23%]
対象外	無形資産償却費 (販売権償却費)	56	76	76	110
	持分法による投資損益	9	35	8	0
	非経常的な損益	-	-	-	-
コア営業利益 [コア営業利益率]	(変更後指標)	1,014 [23%]	994 [20%]	1,098 [22%]	1,300 [25%]

【参考】IFRS第18号「財務諸表における表示及び開示」導入に伴う影響

当社グループでは、2027年12月期から下記のとおり連結損益計算書の表示が変更となる予定です。
 先行して、2026年12月期から業績指標を次のとおり変更しました。

【コア営業利益】： 売上総利益から、販売費及び一般管理費 (無形資産償却費を除く) 並びに研究開発費を控除し、
 さらに当社が判断する非経常的な損益を除外したもの

【コア当期利益】： 「コア営業利益」から当該コア営業利益に係る法人所得税費用を控除したもの

【コアEPS】： 「コア当期利益」を期中平均株式数で除したもの

現行表示 (~2025)	現コア指標 (~2025)	新コア指標 (2026~)	IFRS18号 (2027~)
売上収益 売上原価 売上総利益 販管費及び一般管理費 研究開発費 (無形資産償却費 ※) 持分法投資損益 その他の収益・費用 金融収益・費用	コア営業利益 金融収益・費用	(非経常的な損益の控除) コア営業利益	売上収益 売上原価 売上総利益 販管費及び一般管理費 研究開発費 無形資産償却費 その他の営業収益・費用 営業利益 持分法投資損益 その他の投資収益・費用 財務及び法人所得税前利益 財務収益・費用 税引前利益 法人所得税費用
			営業 投資 財務
税引前利益 法人所得税費用	法人所得税費用 (その他の収益・費用に係るものを除く)	法人所得税費用 (コア営業利益に係るもの)	
当期利益	コア当期利益 コアEPS	コア当期利益 コアEPS	当期利益

※無形資産償却費 (販売権償却費) は、2025年までは販売費及び一般管理費に含めていました。

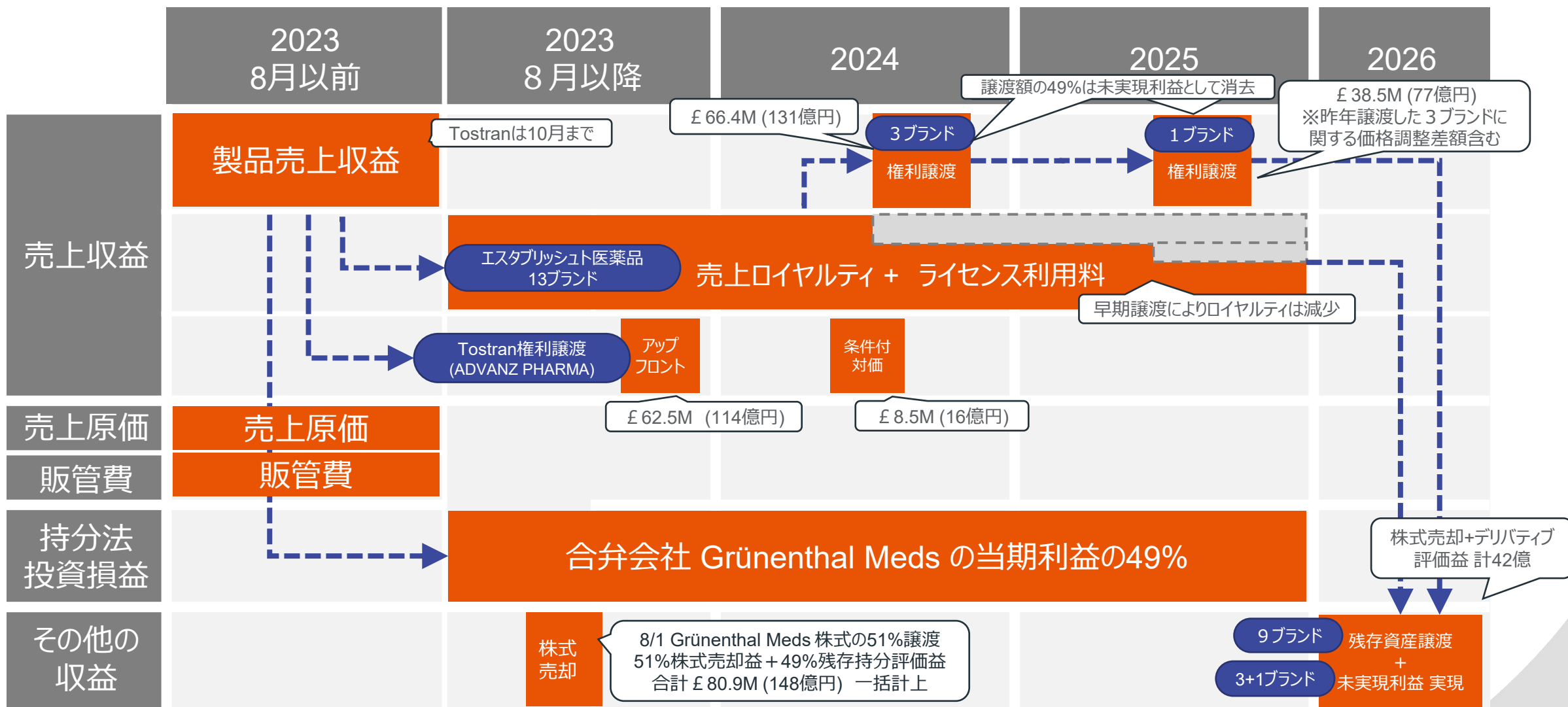
キャピタルアロケーション方針 (2026年-2028年)

豊富な手元資金と借入余力を活用し、成長投資を最優先とした資本配分を行いながら、安定的な株主還元を実現



1. 原則としてネットD/Eレシオ0.5倍以下の範囲内で維持

欧州エスタブリッシュト医薬品事業の損益影響



Note: Kyowa Kirin International plc(以下「KKI」)は、2026年第1四半期に、13→9ブランドの知的財産を含むエスタブリッシュト医薬品事業に関する残存資産を Grünenthal 社に譲渡しました。過年度においては提携契約に基づき保有するオプションを公正価値に基づき評価・負債計上していましたが、オプション契約の消滅に伴いデリバティブ負債の取り崩しならびにデリバティブ評価益を計上しています。

主要開発パイプライン (1)

	開発中の疾患*1	承認予定年*2	開発ステータス	市場規模*3	患者さんの数*4
ziftomenib	急性骨髄性白血病 (NPM1-m or KMT2A-r, 新規診断)	TBD	P3 (グローバル)	★★★★★	20K
KK8398	軟骨無形成症	TBD	P3 (日本)	★	生児出生の 2万人に1人
infigratinib	軟骨低形成症	TBD	P3 (日本) 準備中	★	生児出生の 3.3万人に1人
OTL-200	異染性白質ジストロフィー	TBD	P3 (日本) 準備中	★	生児出生の 10万人に1人*6
KHK4951	滲出型加齢黄斑変性	TBD	P2 (日・米)	★★★★★	2672K
tivozanib 点眼	糖尿病黄斑浮腫	TBD	P2 (日・米)	★★★★★	2219K
OTL-203	Δコ多糖症I型 (Hurler症候群)	2029/2030	ピボタル試験*5 (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人*6
OTL-201	Δコ多糖症IIIA型 (Sanfilippo症候群A型)	TBD	POC試験*7	★	生児出生の 10万人に1人以下

*1 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。*2 開発中の疾患の承認が期待される年です。*3 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に当社が独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★: 500億円未満、★★: 500億円以上-1000億円未満、★★★: 1000億円以上-5000億円未満、★★★★: 5000億円以上-1兆円未満、★★★★★: 1兆円以上 *4 当社独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。*5 P3試験相当。
*6 「10万人に1人」はMPS-I全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの60%になります。*7 P1/2試験相当。

主要開発パイプライン (2)

	開発中の疾患*1	開発ステータス	モダリティ、使用技術
KK4277	全身性エリテマトーデス 皮膚エリテマトーデス	P1 (日本・アジア)	抗体、POTELLIGENT®
KK2260	進行性又は転移性固形がん	P1 (日：進行中、米：準備中)	抗体、REGULGENT™
KK2269	進行性又は転移性固形がん	P1 (日・米)	抗体、REGULGENT™
KK2845	急性骨髄性白血病 (AML)	P1 (日本)	抗体薬物複合体 (ADC)
KK8123	XLH	P1 (米・欧)	抗体
KK3910	本態性高血圧	P1 (日本)	抗体
KK2223	CTCL, PTCL	P1 (米・欧)	Targeted Therapy

* 1 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。

主要開発パイプライン：今後の予定

オレンジ：進行中
灰色：開始前 or 終了済み

プロダクト名	標的疾患	開発段階	2026	2027	2028	+	
ziftomenib	ALL	KOMET-001 ²	P1a ¹ (KMT2A-r)	[Progressing bar]			
			P1a ¹ (non-NPM1-m / non-KMT2A-r AML)	[Progressing bar]			
		KOMET-007 ³	P1	[Progressing bar]			
	AML	KOMET-008 ⁴	P1 ¹	[Progressing bar]			
		KOMET-017 ⁵	P3	[Progressing bar]			
	KOMET-J001 ⁶	P2	[Progressing bar]				
OTL-203	ムコ多糖症I型 (Hurler 症候群)	ピボタル ⁷	[Progressing bar]				
OTL-200	MLD	P3	準備中				

1. 用量漸増試験を実施中, 2. 2L+ Mono, 3. 1L, 2L+, Combinations with cytarabine + daunorubicin (7+3), venetoclax + azacitidine, and 7+3 and quizartinib, 4. 2L+, Combination with gilteritinib, FLAG-IDA, LDAC, 5. 1L, Combinations with cytarabine + daunorubicin (7+3), and venetoclax + azacitidine, 6. 日本におけるNPM1変異を有する再発難治AMLを対象とした単剤試験, 7. P3試験相当。
本スライドに記載の試験はKura Oncology社がスポンサー
棒グラフは clinicaltrials.gov 上のタイムラインに対応

主要開発パイプライン：今後の予定

オレンジ：進行中
灰色：開始前 or 終了済み

プロダクト名	標的疾患	開発段階	2026	2027	2028	+
KHK4951 tivozanib 点眼	滲出型加齢黄斑変性	P2				
	糖尿病黄斑浮腫	P2				
KK4277	全身性エリテマトーデス 皮膚エリテマトーデス	P1	P1試験はほぼ終了。得られた結果を踏まえて今後のシナリオを検討中			
KK2260	進行性又は転移性固形がん	P1				
KK2269	進行性又は転移性固形がん	P1				
KK2845	再発・難治性AML	P1				
KK8123	XLH	P1				
KK3910	本態性高血圧	P1				
KK2223	CTCL, PTCL	P1	準備中			

棒グラフは clinicaltrials.gov 上のタイムラインに対応

為替関連情報

期中平均為替レート

	2025年 Q1	2026年 Q1	前年比	2026年 修正予想*
米ドル (USD)	154円	155円	+1円	150円
英ポンド (GBP)	193円	210円	+17円	205円
ユーロ (EUR)	161円	183円	+22円	180円

2026年Q1 為替影響額 (前年対比)

	売上収益	コア営業利益
米ドル (USD)	-0億円	-0億円
英ポンド (GBP)	+1億円	-1億円
ユーロ (EUR)	+22億円	+12億円

2026年度 為替感応度 (修正業績予想ベース)

	変動	売上収益	コア営業利益
米ドル (USD)	1円安	+18億円	+6億円
英ポンド (GBP)	1円安	+1億円	-1億円
ユーロ (EUR)	1円安	+4億円	+2億円

KOMZIFTI (ziftomenib) ～Kura社とのコラボレーション～

アメリカ

アメリカ以外

	アメリカ	アメリカ以外
開発	<ul style="list-style-type: none"> • Kuraが開発主導 • 開発コストは両社で折半 • Kuraが開発コストを負担 (~2028年) 	<ul style="list-style-type: none"> • 協和キリンが開発主導
販売	<ul style="list-style-type: none"> • Kuraが売上計上 • 50/50 プロフィットシェア 	<ul style="list-style-type: none"> • 協和キリンが販売、売上計上
売上ロイヤルティ		<ul style="list-style-type: none"> • 協和キリンは2桁%台の売上ロイヤルティを支払
製品供給	<ul style="list-style-type: none"> • Kuraが供給 	<ul style="list-style-type: none"> • Kuraが供給

協和キリンは、330百万米ドルの契約一時金と、今後最大で1,161百万米ドルのマイルストーンを支払います。これらには、近い将来支払う可能性がある420百万米ドルのマイルストーン、固形がんに関するオプション権228百万米ドルおよび将来のグローバルな販売に対するロイヤルティ支払を含んでいます。

Crysvita ～Ultragenyx社とのコラボレーション～

経済条件

<p>アメリカ・カナダ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリンが売上計上 発売後5年間は50/50プロフィットシェア 発売後6年目 (2023年4月27日) からは Ultragenyxに段階的な販売ロイヤルティ支払い (20%台中～後半)
<p>ヨーロッパ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリンが売上計上 Ultragenyxに10%以下の販売ロイヤルティ支払い
<p>ラテンアメリカ</p>	<ul style="list-style-type: none"> Ultragenyxが売上計上 協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り (1桁%台前半)
<p>トルコ</p>	<ul style="list-style-type: none"> Ultragenyxが売上計上 協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り (20%以下)
<p>アジア・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリンが売上計上

※すべての地域において製品供給は協和キリンが行う。

推定患者数

疾患	国/地域	発生率	有病率 ¹	出典
PTCL	日本、米国、欧州 (EU4+UK)		59,000	Clarivate社 (Decision Resources調査) NK/T-Cell Lymphoma - Epidemiology Report
CTCL	日本		2,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類
	米国	1,500 / 年		SEER Data (2001-2007)
XLH	日本	1:20,000	成人: 5,000 小児: 1,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; Nationwide survey of fibroblast growth factor 23 (FGF23)-related hypophosphatemic diseases in Japan: prevalence, biochemical data and treatment. (Endo I et al., Endocr J., 2015)
	欧州	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算
	米国	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; New perspectives on the biology and treatment of X-linked hypophosphatemic rickets. (Carpenter TO, Pediatr Clin North Am., 1997)
	日本		30	2010年 厚生労働省 ホルモン受容機構異常に関する疫学調査研究
TIO	米国		500 - 1,000	Ultragenyx社調査
	日本			
nAMD	日本、米国、欧州		2,700,000	Decision Resources社調査
MLD	グローバル	1:100,000		Mahmood et al. Metachromatic Leukodystrophy: A Case of Triplets with the Late Infantile Variant and a Systematic Review of the Literature. Journal of Child Neurology 2010,
MPS-IH	グローバル	1:100,000 ²		Puckett et al. 2021 Orphanet J Rare Dis 16:241: US NBS data (MPS-I incidence derived from NBS data in Table 3)
MPS-IIIA	グローバル	~1:100,000		Shapiro EG, et al. J Pediatr. 2016 Mar;170:278-87.e1-4.
AML	日本	7,000 / 年		厚生労働省令和 2年 患者調査、傷病基本分類
	米国	22,000 / 年		National Cancer Institute. Cancer Stat Facts: Leukemia

1. 有病率は国または地域の全人口あたりの推定人数; 2. この数値は生児出生10万人におけるMPS-I全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの約60%

略語集

AG	Authorized Generic	オーソライズド・ジェネリック
ALL	Acute lymphoblastic leukemia	急性リンパ性白血病
AML	Acute Myeloid Leukemia	急性骨髄性白血病
BS	Biosimilar	バイオ後続品
CTCL	Cutaneous T cell lymphoma	皮膚T細胞リンパ腫
DME	Diabetic Macular Edema	糖尿病黄斑浮腫
EMEA	Europe, the Middle East and Africa	欧州・中東・アフリカ
JP	Japan	日本
LCM	Lifecycle Management	ライフサイクルマネジメント
MLD	Metachromatic Leukodystrophy	異染性白質ジストロフィー
MPS-IH	Mucopolysaccharidosis type I, Hurler syndrome	ムコ多糖症I型 (Hurler症候群)
MPS-IIIA	Mucopolysaccharidosis type IIIA	ムコ多糖症IIIA型 (Sanfilippo症候群A型)
NA	North America	北米
nAMD	neovascular Age-related Macular Degeneration	滲出型加齢黄斑変性
PTCL	Peripheral T cell lymphoma	末梢性T細胞リンパ腫
TIO	Tumor Induced Osteomalacia	腫瘍性骨軟化症
XLH	X-linked Hypophosphatemia	X染色体連鎖性低リン血症



～本資料のお問合せ先～

協和キリン株式会社
財務経理部 IRグループ

03-5205-7206 / ir@kyowakirin.com